

学習会 (子ども会) だより 2月号 前編

MY SKY 第18号

マイ スカイ

1996年2月13日火曜日発行(毎月第2・第4土曜後の火曜日定期発行)

発行者

板野中学校
学習会

編集・文責・吉成正士

いよいよ3年生は進路^{しんろ}が決まってきたようですね。すでに決まって、気持ちのうえではもう新たな生活のスタートをきっている人もいるかもしれません。また「これからが本番^{ほんばん}！」という人もいるでしょう。全ての人が、自分の決めたそれぞれの進路でドーンとやっていけることを、心から祈^{いの}っています。

さて、「亡国の構図」についての解説^{かいせつ}は、「MY SKY 臨時2号」として出すので、本号は、本年度の終わりとなりました全体学習についてと、繰り越^くしていました沖縄問題^{おきなわもんだい}について載^のせておきたいと思います。

◎「全体学習その後-僕^{ぼく}たちの闘^{たたか}い」(1月25日:2年第5回全体学習)

1月25日に、2年D組が「全体学習その後-僕^{ぼく}たちの闘^{たたか}い」を資料^{資料}に使って全体学習を行いました。ご存^{ぞん}じの通り、この資料は2年E組が板中祭^{えん}で演^{じん}じた人権劇^{じんけんげき}のシナリオです。そしてこの全体学習の中で、こんなことが発言^{はつげん}として出てきました。

「言^{ちが}ってることとしてることが違うから発表^{発表}するのがしんどくなったときもあった」

「資料^{資料}じゃなくテーマ^{テーマ}を設^{もう}けて、先生^{先生}じゃなく生徒^{生徒}が司会^{司会}をして、やってみたい」

「発表^{発表}していない子^子でもいい意見^{意見}もってる子^子がいる。逆に発表^{発表}してる子^子を疑^{うたが}ってしまう」

「全体学習^{全体学習}イヤだったけど、イヤイヤ言^言ってても何もできんと思^思ったら、前^前ほどイヤでなくなってきた」

「部落^{部落}に生まれたくなかった。生まれてよかったと思^思ってる人はいるのだろうか」

どれも、深く論議^{ろんぎ}していきたいことだと思います。

そして、今回の全体学習について、次のような感想^{感想}が寄せられました。

板野中学校の生徒^{生徒}にあえて本当に良かった。森口^{森口}さんの語りや「峠^峠」を読む中で、自分^{自分}なりにもっていたが、ひとに逢^あえた、人間^{人間}にあえた思いがしました。あたたかさ本校^{本校}でいうやさしさを感じました。全体学習^{全体学習}、部落問題学習^{部落問題学習}に対して嫌^嫌だと語^語ってはいたが「やめよう」ではない。人間^{人間}そのものの、又^{また}中学生^{中学生}の可能性^{可能性}をみた思いで、何度^{何度}も何度^{何度}も涙^涙が出ました。

私は、母校^{母校}である東小^{東小}に勤^{つと}めています。小学生^{小学生}の頃^頃「このもんはこわいんや。」

犬でも食うんや」「走れ」とか言われ、そのことのもつ意味もわからず走ったことを今でも思い出します。部落問題と対峙する原点がここにあります。このことで、いつも背中のゾツとする思いをずっとしています。差別する側の私の原点です。東小の地域の子供達は、どんな思いでこの私のしたことを見つめるでしょう。差別は、差別する側もつらいです。おそろしいです。「同和」教育をする毎に、無知は差別を実感しています。ムラの子達と共に考え悩む中で、本当に自分をみつめたい。こんな思いをする子をなくしていきたい。自分も解放されたい……。で、今とりくんでいます。

板野中の生徒の語りを聞く中、自分にピンピンきて、自分をみつめています。つらいですね。でも、これをしていく中でこそ、解放されていくのだと思います。部落問題学習は、自分をみつめる学習だと思っています。「やさしさ」と「かしこさ」を育てる教育だとも思っています。子供達からまた大きな感動をもらいました。ありがとうございましたと伝えて下さい。私もがんばる力をもらいました。

おおさか ね や がわ しりつ ひがししょうがっこう いまい ようこ
大阪府寝屋川市立東小学校 今井 洋子



◎本年度最後の全体学習によせて「ふるさと」(2月1日:1年第5回全校全体学習)

そして、2月1日には1年C組によって資料「ふるさと(丸岡忠雄)」を使い全校全体学習が行われました。このときは、県内各地から70名。そして、県外(愛媛県、鳥取県、岐阜県、福井県、大阪府内各地)からも30名もの方々に来ていただき、ともに学習することができました。

この学習では、次のような内容の発言が出てきました。

「この資料を勉強していると、結婚するのが恐くなってくる」

「何もないふるさとと、部落というふるさととはすごく違うように思う」

「ふるさととは、みんなとの思い出がある、素敵なところ」

「訪宅研修の時の父の口先だけの言葉にショックを受けた」

「町内では部落のことが言えるけど、町外では言えるかどうか心配」

「自分の兄弟は、自分が部落の人間だということを多分知らない。だから、このことについて相談ができない。けど、やっぱりしていきたい。そのためには仲間の存在が必要」

やはり、しっかりと考えていかなければならないことばかりだと思います。特に4つめのことを、部落外の人もしっかり考えていかなければならないと思うんです。

部落外に問題があるから、部落差別は起こるんです。部落に問題があるから部落差別が

起こるのではないのだと思うんです。だから、『部落問題』とは言ってますけれども、本当は『部落外(の)問題』なんだと思うんです。それは他の差別についても言えることで、『「障害」者問題』ではなく『「健常」者(の)問題』で、『女性問題』ではなく『男性(の)問題』だと思うんです。

そのあたりを、私たちみんながしっかりと理解して、^{ある}歩かねばならないのだと思います。

この発言をした人や、同じ思いを持っている人にぜひとも伝えておきたいことがあります。この問題で、親子が不幸な関係になることは、絶対^{ぜったい}にあってはならないことです。両親の考えから目を背けるのではなく、その思いをしっかりとかついで、^{たが}互によりよい関係が築けるよう、マイペースで^{ぜんしん}前進してください。くれぐれもお願いします。

ここで、感想文の一つを^{しょうかい}紹介しておきます。

部落問題、部落差別の現実を真正面に^{ましようめん}据え、自分の身のまわりの人間の発言や行動をしっかりと見つめながら考えようとする生徒や先生たちの姿が(数の問題でなく)确实にある。そのことに、熱・力そんなものを感じました。

私たちの部落問題学習は、この差別の現実をしっかりと^み見据えた取り組みになっているだろうか。ふと考え込んでしまうようなところがあります。

自分の立場・位置を問う姿に、日常のあるいはこの全体学習のつみかさねの重さを感じました。いつでも逃げられる立場の自分に何ができるのか、何をすべきなのか、40数年生きた私にも返される^{かだい}課題です。

ひとつのとりくみで、全て満足できる^{せい}成果を求めるのは無理がある。今日のこの形以外の^{さまざま}様々なとりくみのからみあった中で子どもたちの発言だったんだろうということを強く感じさせられました。

いじめの問題等にもつながる、考え合う、そしてつながり合う子どもたちの姿をみていただきました。ありがとうございます。

おおさか ふたつし どう わ きょういくけんきゅうきょうぎかい し じ ま たか お
大阪府高槻市同和教育研究協議会 四十万 隆雄

これら全体学習の数日後、一通の手紙^{とど}が届きました。全体学習を見に来られていた、^{やがわし}寝屋川市の先生でした。皆さん宛^{みな あて}になっているので、紙面^{しめん}をとって紹介しておきます。この先生の思いも、しっかりとついでいきましょう。

2年生の生徒さんと先生方へ

寒い日が続いていますが、お元気ですか。^{せんじつ}先日は、^{すば}素晴らしい全体学習に参加させていただきありがとうございました。^{あらた}改めて「解放教育は、あたたかいなあ」と

いうことを感じ、元気をいっぱいもらって帰ってきました。

「言っていることと生活が結び付いていない」という発言がありました。差別はいけな^いと言いながら差別してしまっている自分に気づいていることがすごいです。また、それを受け止めてくれる仲間がいるから言えることなのでしょう。多くの大人は「差別はいけな^いと思うし、差別はしてはいけな^いません」と答えます。それは、自分のことが見つめられていないか、それを出しにくい社会（世間^{せけん}）があるのでしょうか。

生活と結び付いていないと言っているが、自分が気が付かないだけで生活が高まっている事実もあると思います。

わたしの生活も聞いてください。

私の母は、今72才です。戦争中も日本赤十字の從軍看護婦^{せきじゅうじ じゅうぐんかん こ ぶ}として、シンガポールやビルマなどの戦地へ行ったそうです、帰ってから看護婦^{つと}として勤めていました結婚して私が生まれました。私の父は、ギャンブルが好きで私の貯金箱の一円のお金まで持ち出して遊んでいたと祖母^{そ ぼ}が言っていました。母は、ずっと辛抱^{しんぼう}していたのですが、我慢^{がまん}できなく私が3才^{ころ}の頃^{ころ}にとうとう離婚^{りこん}しました。アルバムにも父の写った写真はなく、どんな顔をしていたのかももうっすらとしか思い出せません。母は、病院の当直^{とうちよく}（24時間勤務^{きんむ}）があるので、小さい頃は、祖母が身の回りの世話^{せわ}をしてくれていました。小学校の1年生ぐらいまでは、母も祖母も勤めていたので近所の人^{あず}のうちに預^{あず}かってもらっていました。その家は、3人の子どもがいたので私を入れて4人でにぎやかで寂しい思いをしたことはありませんでした。小学校へ入ってからそんな寂しい思いをしたことがないのですが、一つだけいやな日がありました。今は日曜参観日^{にちようさんかんにち}と言っていますが、昔は父親参観日^すと言っていました。私は、父親が当然来てくれるわけがないので学校からのプリントも捨てていました。母も仕事が忙^{いそが}しいだろうということで、学校からの連絡^{れんらく}はほとんど伝えませんでした。

高学年になればなるほど、そんな傾向^{けいこう}が強くなっていきました。回りに差別があるのを少しずつ感じていったのもその頃です。「おとうちゃんがいてないのによくがんばっているなあ」と相手はほめているのだけれどもちっとも嬉しいわけがなくなっ^{うれ}て嫌な気がしていました。

逆に「やっぱり、あそこはおかあちゃんしかおらへんから、乱暴^{らんぼう}であかんなあ」という声もありました。ガキ大将^{だいきょう}で暴力をふるうのが悪いのですが、自分の力ではどうしようもないことに対してひつつけられて言われることには、やっぱり嫌な気がし

ました。自分の^{がんば}頑張りでは、どうしようもないことに対しておかしいと言える力をつけなければ、人権は守れないと思います。

今、自分自身を振り返ってみて、母親の頑張りやまわりの人達の頑張りが見えるのは、そんな生活があったからだと思っています。

人権の学習は、生きていくための学習です。

差別があれば、気持ちが暗く悲しくなっていきます。

そして、自分のことが^{きら}嫌いになっていきます。

まわりにいる人が信じられなくなり^{きら}嫌いになっていきます。

^{ひくつ}卑屈になっていくわけです。

差別をなくしていくと、気持ちが明るく楽しくなっていきます。

そして、自分のことが好きになっていきます。

まわりにいる人が信じられ好きになっていきます。

自信が生まれていくわけです。

私はいつも自分のことも周りの人も好きになれるような人になりたいと思っています。

楠本くんの「今の自分がめっちゃ好き」という解放された発言。^{かがや}輝いていました「みんな差別があるからつらい思いしているんやろ。だから仲良しの友達でなく本当の仲間をつくろうや」という呼びかけだったと思います。出身をかくしている自分を見つめた発言もありました。それに対しても「Mちゃんは、部落に生まれたから、全体学習が好きと言えた」という仲間を支える発言もありました。しっかりと人権でつながっているなあと思いました。

三浦さんは「自分は今、いい^{かげん}加減な生活をしている」と語りました。そして、「いつか今の自分を^は恥ずかしいと思える自分になりたい」と語りました。^{てんぼう}展望を語っているから、絶対に変われます。夢と希望と^{ろまん}浪漫を語っていくことで、人間は変われます差別は人間がつくったのだから、人間の力で無くせます。そのために、一人から二人というように仲間をつくっていくことだと思っています。

夜の交流会で、今度みんなで、大阪の^{じんけんしりようかん}人権資料館に行きたいというお話をされてい
ました。資料を^{どうよう}同封していますので、ごらんください。そして、大阪に来られるとき
には、案内をさせてください。本当にありがとうございました。

1996年2月5日 西山 一夫

手紙の最後にもありますように、鳥忠で夜の交流会をしていたとき、「リバティーお
さか」に行きたいと言っている子どもたちがいるということを伝えと、パンフレット等
を送ってもらえました。ぜひ一度、希望するみんなで本当に行ってみたいものですね。

なお、パンフレットは吉成の所にありますので、見てみたい人は^{れんらく}連絡してください。



◎^{かんが}考えよう! 「お・き・な・わ」

昨年^{さくねん}9月、沖縄^{おきなわ}でアメリカ兵^{へい}3人による、少女^{しょうじょ}暴行^{ぼうこう}事件^{じけん}が起こりました。当時はかっ
り騒^{さわ}がれたのですが、それも今では、一部だけのものになりつつあるように思えます。

そもそもどうしてアメリカ軍が日本にいるのか? 他国^{たこく}にはそういう例^{れい}はほとんどない
というのに……。

第二次世界大戦の後、日本は戦争^{ほうき}を放棄^{ほうき}しました。その時につくった日本国憲法^{けんぽう}の2番
目にあるのが、次のような文章です。

日本国憲法第二章 第九条

日本国民は、正義^{せいぎ}と秩序^{ちつじょ}を基調^{きちょう}とする国際平和^{こくさいへい}を誠実^{せいじつ}に希求^{ききゅう}し、国権^{こくけん}の発動^{はつどう}たる戦争
と、武力^{ぶりよく}による威嚇^{いかく}又は武力^{いかくまた}の行使^{こうし}は、国際紛争^{こくさいふんそう}を解決^{かいけつ}する手段^{しゅ段}としては、永^{えい}久^{きゅう}に
これを放棄^{ほうき}する。

前項^{ぜんこう}の目的^{もく}を達^たするため、陸海空軍^{りくかいくうぐん}その他の戦力^{せんりき}は、これを保持^{ほし}しない。国^{こく}の交戦^{こうせん}
権^{けん}は、これを認めない。

つまり、軍を持たないことを誓^{ちか}ったわけです。では、どうやって日本という国を守るの
か……? そこで登^{とうじょう}場^{じょう}してくるのが、アメリカ軍なんです。日本がもし他国^{たこく}に攻め^せられたと
きに、日本が戦^かう代わりにアメリカが戦^かってくれるようになってるんですね。

では、アメリカ軍が日本にいて、一体^{いつたい}どんな問題^{もんだい}が起きてくるのか? 問題はここ
です。実は、戦後51年目を迎えますが、米軍^{べいぐん}が巻き起^まこす事件^{じけん}・事故^{じこ}は、明らかになっ
ているものだけでも4700件^{けん}を越えています。おもてに出さ^だずに隠^{かく}されているものも少
なくないのだそうです。つまり計算^{けいさん}すると、2日に1回は沖縄^{おきなわ}の人が、特に女性^{にょせい}や子ども

たちが犠牲^{ぎせい}になっていることになります。

この事件が起こった当時、アメリカのリチャード長^{ちようかん}官はこの事件に対して「レンタカーを借りたお金で売^か春すれば問題なかった」と発言し、辞任^{じにん}しました。ここでも、アジア民族に対する差別意識や特に女性に対する差別意識の深さがうかがえます。いったい、私たちのことをどう考えているのでしょうか。

徳島にはアメリカ軍基地がないため、どうしても沖縄の問題は遠い世界のことのように入れますが、距離^{きより}が離れていても実は関わりは深く、日本国民として私たちも考えていかなければならないのだと思うのです。

沖縄は、日本にあるアメリカ軍基地の75%が集^{しゅうちゆう}中しているのですが、残り25%の所でも、同じような問題が起きています。それらも合わせて、アメリカ軍基地問題や日米安保問題、そして、軍隊とは、戦争とは、平和とは、人間とは……しっかり考えていきたいと思います。

最後に、8万5000人もの人々を集めた昨年10月21日の沖縄県民総決起大会^{おきなわけんみんそうけつ ぎ}を受けて行われた山口県での取り組みの一文を紹介しておきます。

基調報告^{きちようほうこく}(一)

9月4日、沖縄在^{ざいじゅう}住の米海兵隊員三人は、少女を待ちぶせて車で連れ去り、粘^{ねんちやく}着テープで手足をぐるぐるまきにしばり、野獣^{やしじゅう}のごとく暴行^{ぼうこう}をはたらきました。この凶悪^{きようあく}・野蛮^{やばん}な事件にたいして、沖縄の人々のなかで積もり積もった怒りが天にむかって噴き上がっています。

わたしたちは今回の問題について、基地によってもっとも犠牲^{ぎせい}を強いられてきた、沖縄をはじめ、日本各地の基地の街に住む人々の思いや怒り、悲しみにたって考え、行動していかなければなりません。その思いや怒り、悲しみは、日本が第二次世界大戦に負けてから、基地のある街ではいく度となくこのような事件がくりかえされ、戦後50年たったいまなお、基地があるために、一人の少女が犠牲を受けたことからきています。この歴史^{れいし}の冷厳な事実^{れいげん}にたってこの問題を見ていかなければならないと思います。

沖縄の人々は今回の事件^{けい き}を契機^{ひげき}に、二度とこのような悲劇を起こさせないために、10月21日の沖縄県民総決起大会^{おきなわけんみんそうけつ ぎ たいかい}には8万5000人もの人々が結集^{けっしゅう}しました。この集会には、多くの中・高生や青年が、沖縄の各地で決起し、参加しています。青年代表として普天間^{ふてんま}高校3年生の仲村清子^{なかむらすが こ}さんが発言し、日本全国の人々や戦争体験

者・被爆者^{ひばく}たちに大きな感動とたたかう勇氣と力を与えました。仲村さんは、「わたしはいままで基地があることを仕様^{しやう}がないことだと受けとめてきました。しかしいまわたしたち若い世代^{せだい}も、あたりまえだったこの基地の存在^{そんざい}を見返^{かえ}しています。そしていま、ここにはたくさんの高校生、大学生が集まっています。若い世代もこの問題について真剣に考えはじめています。いまこのような痛ましい事件^{いた}が起こったことで、沖縄は全国に訴^{うった}えかけています。けっしてあきらめて



沖縄を基地のない島にと訴えた高校生の仲村清子^{なかつ村きよこ}さんはいけないと思います。わたしたちがここであきらめてしまうことは、つぎの悲しいできごとを生み出してしまうからです。沖縄をほんとうの意味で平和な島にしてほしいと願います。そのためには私も一步一步、行動していきたい。わたしたちに静かな沖縄^{しず}を返してください！悲劇^{ひげき}のない平和な島を返してください！」と訴えました。

.....略.....

「11・19山口県 青年・学生総決起集会 一報告集一」

仲村清子^{なかつ村きよこ}さんの言葉をかみしめるとき、1922年(昭和11年)京都の岡崎公会堂で創立された第一回水平社大会を思い出します。あのとき堂々と演説した若^{じゃ}干^{つかん}14才の山田孝野^{やまだこの}次郎^{じろう}の言葉……。

「……そんな現^{げん}状^{じやう}を維持^{いじ}したならば、永^{えい}久^{きゆう}に人間として扱^{あつか}われはしません。ですから我^{われ}々^{われ}が奪^{うば}われた人間性を返せと権利を主^{しゆ}張^{ちやう}し、団結^{だんけつ}することが必要なのです！

今、私たちは泣いているときではありません！大人も子どもも一^{いつ}齊^{せい}に立って、この嘆^{なげ}きの原因^{げんいん}を打ち破^うってください！光^{ひかり}輝^{かがや}く新しい世の中にしてください！」

私たちはいろんな問題について学習をしているわけですが、「遠くて近い問題」「近くて遠い問題」そして「遠くて遠い問題」を、もっともっと考えていきたいと思ひます。

なお、今回の沖縄総決起集会をまとめた、全39ページ、手のひらサイズで読みやすい「ルポルタージュ 95年10月21日の沖縄 燃えあがる南の島」という本があります。きょうみのある方は吉成までご連絡ください。



◇ ◇ ◇ ^{にっ}これからの日程 ◇ ◇ ◇

年度末も押し迫り、いよいよ忙しくなってきました。けど、忙しさにまぎれて、大切に
しなくちゃいけないものを見逃すことのないようにしてくださいね。

そして、すべての人に「いい一年だった……」と思えるようになってもらいたいもので
す。「忙中閑あり」また辞書をひいておいてください。



- ★ 21日(水) 「亡国の構図」全員鑑賞(午後：文化の館)
- ★ 23日(金) 南小学校との学習会交流会(4:30～5:30：南公会堂)
- ☆ 26日(月) 3年生を送る会(午後：体育館)
- ★ 3月1日(金) 東小学校との学習会交流会(4:30～5:30：東公会堂)
- ★ 6日(水)～8日(金) 1・2年学年末テスト
- ☆ 13日(水) 卒業式
- ★ 20日(水) 学習会お別れ一日研修(終日：総合センター)
- ☆ 22日(金) 終業式



石川一雄さん(8月3日：全契にて)